

# 入中1年人権だより

徳島市 八万中学校  
1年生 第1号  
2022年 5月30日  
編集・文責 吉成正士

中学生になって初の体育祭はどうでしたか？ 楽しかったですか？ その前に行った学年全体人権学習について、みなさんの感想を交えながら、「人権だより」を発行していきたいと思います。思い出しながら、読んでみてください。

## 人権学習は、すべてを変える

■しっかりと言いたいことが言えていて、意見を聞いて「私もそうしよう」や、「たしかに」など共感したりすることができた。意見を聞いて思うだけでなく、「行動」に移そうと思った。他人事だと思っていたけど(今まで)、とても身近にある問題だということが分かった。些細なことでも気づいて行動に移すまでが大事だと思った。気づくだけではだめなんだと…。身近な出来事が人権を考えるうえで大切なことだと分かったから、これからはそのことも頭に入れて生活したいと思った。

中国からコロナが来たから中国が悪いみたいになったとOさんが発表していたのを聞いて、偏見は良くないと思ったし、偏見じゃなくても、その思い込みや決めつけで人権問題に関わるので、そういうのを身近なところから対処していきたいとも思った。

みんな、「どんな学級にしたいか」のところでは、大多数が、「困っている人がいれば助けたい」や、「いじめやケンカがない学級」など、人権に関することが書けていてすごいなと思ったし、共感した。私も人権の話を書いて、目標とするめざしている人になれるように気がついたら行動したりして、一步一步近づけたらなと思った。それに、みんなに頼られる存在にもなりたいので、Kさんが言っていたように、できていて、やっけていて当たり前のことができていないので、それをできるようにするのも目標にしようと思いました。(2組 小川朱莉)

友の言葉が自分に影響を与え、自分が変わっていく。それって、お家の人や先生のお説教で変わるのではなく、自ら気づいて、変わろうとするわけですね。自発的に変わろうとするわけです。それは素敵な関係であり、素敵なことです。

こういった学習をしていくと、そんな場面に出くわすことがよくあります。あるべき姿を自分でめざそうとする場面に。自分がしっかりしていくわけです。勉強だってするようになります。勉強を、「やれ！やれ！」と言われてやるのはしんどいです。けど、自ら気づいて、「やろう！」とするのは気持ちがいいものです。そんな自分に変わっていくわけです。

人権についてみんなで語り合うことによって、どう考え、どう行動すべきかを、自らに問うようになります。つまり人権学習は、みなさんのあらゆる成長につながるわけです。

友の言葉で自分が変わる。みんなが変わる。

みんなで影響し合って、そんな関係、そんな学年、

最高の学年にしていきませんか。

## まずは、もっともっと学んでいこう

■今日の学習でも、差別はなぜ起こるのか、それをどう解決していけば良いのかを考えました。差別とは受け取ってしまうと永久に心に刺さってしまって抜けません。だから、そのようなつらいことをなくすために、私たちは何をすべきか、どう生きるべきか、考える必要があります。小学校のときに習ったいろいろな差別をもとに、どのようにすれば差別をなくせるかを少しずつでもいいので考えていきたいなと思いました。

また、近年の子どもたちが楽しんでいるゲーム内でも差別が起こっているようです。差別をしている理由は何でしょうか。悩みごとがあるなら先生や親、友達に話せば解決するかもしれないのに。僕はいつも思います。

(2組 杉本拓優)

みなさんには、いろいろな悩みごとを相談できる人がいますか？「もういる」という人もいれば、「まだそこまでの人はいない」という人もいるかもしれません。



相談できる人はいても、より専門的な話を聞きたい人のために、世の中にはいじめや自殺、暴力やハラスメント、ストーカー、人権などについて相談できる窓口がたくさんあります。場面に応じてうまく使っていけばいいと思います。でも一番大切なのは、身近な相談相手ではないかと思えます。そんな人を見つけること、つくっていくことです。自分の胸の底にあることを、腹を割って話せる友を持つことです。見てもらった動画のように、人権学習を通じて、そんな友をつくっていければいいなと思います。

それと、みなさんは北校舎階段下の「人権新聞コーナー」を知っていますか？新聞で、その日気になった人権に関する記事を、1週間分、毎日貼り替えています。

よく、「どんな人権問題があるのか分からない」とか、「差別って本当にあるの？」とかいう言葉を聞くことがあります。それを聞くたびに、「ここ見てよー！」と、いつも心の中で思います。

新聞を見ていると、人権に関する記事は毎日のように出ています。つまり、あるのに目を向けられていないだけです。なかには、被害者や当事者の切実な言葉が載っていることもあります。ぜひみんなにも見てほ

しいし、読んでほしいなと思っています。そんな思いで、毎日貼り続けています。

「差別はなぜ起こるのか」

「どう解決していけば良いのか」

「私たちは何をすべきか」

「どう生きるべきか」

感想にこう書いてくれました。他にも、同じような思いになっている人もいないかもしれません。まずは、差別の現実、当事者の声を、もっともっと詳しく学んでいくことから始めてみませんか。「人権新聞コーナー」は、そんな思いに応える場になるかもしれません。

でも、できれば当事者から直接話を聞くことをオススメします。話を聞けば、その人の感情が、自分の中に流れ込んでくることもあるからです。それが大事ではないかと思えます。単に知るだけなら、本を読むだけで済むかもしれません。でも、それだけでは読み取れない、文字では表せない感情を読み取ることが大切なのではないかと思うのです。そんな学びができればと思えます。私たちも協力します。ぜひ一緒に、主体的に学んでいきませんか。

## 自分を語り、違いを知り合うことから

■このような全体人権集会は、とても大切で貴重な会と思えました。そう思ったわけは、人それぞれ個性がまったく違うし、意見や考えていることが違うので、人それぞれの意見や考えを認めることが大事だと気がつくことができたからです。また、自分が思っていることや、こんなことを他の人に知ってほしいなどの共有がさらにできるようにしたいです。

いじめが起こる原因は、自分勝手な決めつけだったり、思い込みなど、すぐなくせそうな簡単なことで起こることだと思えました。なので、一人一人がそのことを知って、しっかり考えたらなくなることだと思えました。これからは人権について考えたいです。(3組 藤本晃成)

それは、無理です(笑)。何が無理かという、一人一人、個人に任せていて、いじめをなくすことはできないということです。なぜなら、一人一人に考えることを任せると、考えなかったり、考えが浅かったり、考えが違ったりして、結局は個人に任せた結果、「なくなりませんでした」となってしまうからです。個人の責任にしてしまわないこと。つまり、やはりみんなで考えていくことでないかと思えます。

感想の前半に、「人それぞれの意見や考えを認めることが大事」「共有がさらにできるようにしたい」とあります。その通りです。「認める」とか「共有」するためには、みんなで自分を出し合う場面が必要にな

ってきます。出し合うからこそ「違い」がはっきり見えて、「あ！違うんだ」と分かるのではないのでしょうか。「違い」がはっきり見えても無いのに、「個性は大切」とか、「個性を認め合おう」とかいうことがあります。見えてもいないのに個性を認めるって、おかしくないですか？ だからこそ、やはりこういう語り合いが必要なのだと思います。そのためにも、まず「自分が語る」こと。自分が語るから、友に思いが届く。友も語るから、自分にも思いが届く。互いの思いを聞くことで、「違い」がはっきり見えてきます。そうして思いが共有され、「違い」を認め合えていくわけです。それが、いじめをなくす第一歩です。

## 話し合うことは自分の視野を広げること

■私は今日、人権学習を学んで、いろいろな人のいろいろな意見を聞きました。そして私は、話し合うことで、正しく学ぶことの大切さを知りました。話し合うことで、その人のことを少しずつ知ることができ、自分の視野を広く持つことができます。正しく学ぶことで、今、自分にできることは何かということを考えられるし、正しく行動できます。

いろいろな形で差別やいじめは起こっていますが、どの差別やいじめも、いろいろなことを知らないから起こるのだと思います。周りの人の一部しか知らなくて、その一部を嫌いだとか言って、人を否定するのはおかしいと思います。

日常生活で人権学習につながることはたくさんあると思うので、一つ一つの言動に責任を持って、自分や友達が傷つく行動をしていないか考えて行動しようと思えました。(3組 大賀野花)

もし、このような話し合う機会のないまま大人になっていけば…。それはそれで、それが普通ですから、特

に何の不自由も感じないかもしれません。でも、みなさんのように、対話するなかで人と違うことの面白さとか、知らなかったことが知れる喜びとか、そういう体験を普通にして大人になっていけば、人に対する関わり方が違ってくるように思います。人に対して壁をつくらず、素直に前向きに受け入れられる人に育っていくような気がします。

知らないことは怖いこと。よく知らない、いつの間にか壁をつくり、相手を否定したり、嫌ったりしてしまうかもしれません。

人権の本「わたしの願い」にあるハンセン病回復者の金泰九(キム・テグ)さんが、生前よく言っていました。「『正しく知って正しく行動する』このことを当たり前に行動に移したら、差別なんか起こらないんじゃないかなあ」と。(次号に続く)

